令和８年度　　小平第三中学校　授業改善推進プラン

数学科　１年生

１　日常の学習状況について

１年生の数学の学習状況については以下のような特徴が見られる。

（１）　正負の数の基本的な計算などの理解はするが、家庭学習が身に付いていないため分数・累乗などを含む計算問題ではミスが目立ち定着していない。

（２）積極的に取り組む生徒が多く、理解しようとする前向きな姿勢が見られた。

２　期末考査等の結果を踏まえて

（１）　小学校の振り返りテストでは、基本的な計算は出来ていたが、分数の計算を苦手とする生徒が多い。通分が苦手な生徒や、分数の計算において約分忘れをする生徒が見られた。

（２）　思考・判断・表現を問う問題に対しての正解率が下がる。問題の意図を読み取り答えていく練習を意識して取り組ませる。

３　学力に関する状況

本校の１年生の数学の学力については以下のような傾向がある。

（１）＜知識・技能＞単純な計算問題、特に整数の計算についてはできる生徒が多い。しかし、分数、小数の計算や、特別な支援、指導が必要な生徒（掛け算九九や二ケタの引き算ができない）が各学級にいる。

（２）＜思考・判断・表現＞文章を読み、考えて問題を解くことが不得意である生徒が多い。一部の生徒で途中式や式の書き換えを苦手としている。

（３）＜主体的に取り組む態度＞事前に類題を提示した小テストを行ったが、結果の振り返りの練習ができていない生徒も多数いた。何度も粘り強く取り組む姿勢が身に付いていない。

４　教科の課題

（１）　授業面

・間違えた問題をそのままにしているため、解きなおす習慣を身に付ける必要がある。

・問題の意味を考え、思考力や判断力を問う問題の解法について理解を高める必要がある。

（２）　指導面

・問題集を提出させることで問題演習の機会を設けているが、反復練習が身に付いていない。

・個別指導を必要としている生徒が多い。

５　授業改善について

（１）学習面

・５０分の取組で何を理解しなければならないのかが分かるよう本時のめあてを明示し、授業の流れを授業プリントに示し見通しを持った授業を行う。

・授業の中でワークや復習計算プリントを行い、基礎基本の解く力を身に付ける。
基礎基本を、繰り返し問題練習に取り組む。

・TT 授業を活用して、個別に対応できるようにする。
・ICT 機器を活用し、生徒の興味を持たせるようにする。
・問題演習の充実では、家庭学習でスタディサプリを活用し、基礎的な問題の演習量を確保する。

（２）指導面
・質問教室などを通して個別指導を行い、基礎力不足の生徒の学力向上につなげる。
・夏休みの課題で基本的な１学期の計算問題を中心とした反復練習を行う。

６　成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和８年度末に以下の方法で評価する。

（１）＜知識・技能＞定期考査・小テストの結果
（２）＜思考・判断・表現＞定期考査・小テストの結果、レポートの取組
（３）＜主体的に取り組む態度＞授業での取り組み、提出物、定期考査・小テストの結果

令和８年度　　小平第三中学校　授業改善推進プラン

数学科　２年生

１　日常の学習状況について

２年生の数学の学習状況については以下のような特徴が見られる。

（１）基礎的な四則計算の理解度はあるが、文字を使って説明することに苦手意識をもつ生徒がいる。

（２）基本的な計算などはおおむね理解しているが、分数・累乗・カッコを含む計算問題などではミスが目立ち、定着していない生徒が多い。

（３）積極的に取り組む生徒が多い。

２　期末考査等の結果を踏まえて

（３） 分数の計算において、方程式の解き方と混同してしまい、分母を消してしまう生徒が多かった。

（４） 連立方程式の計算の解き方を理解できている生徒は多かったが、計算にかかる時間に個人差が大きかった。代入法の理解が不足している生徒も多く、活用できなかった。

（５） 文章を読むことに抵抗がある生徒が多く、文章が長い問題になると、問われていることが正確に読み取れず答えられない。普段からの授業で、多く扱い指導を行う。

３　学力に関する状況

本校の２年生の数学の学力については以下のような傾向が見られる。

（１）＜知識・技能＞単純な計算問題、特に整数の計算についてはできる生徒が多い。しかし、分数、小数の計算や、特別な支援、指導が必要な生徒（掛け算九九や二ケタの引き算ができない）が各学級にいる。

（２）＜思考・判断・表現＞文章を読み、考えて問題を解くことが不得意である生徒が多い。一部の生徒で途中式や式の書き換えを苦手としている。

（３）＜主体的に取り組む態度＞多くの生徒がテスト後に学習の振り返りを行うことで、学習の仕方の見直しをすることができた。

（４）夏休みに１学期の復習と予習で、スタディサプリを活用し取り組みの実践をしている。
理解力に応じた対応としている。

４　教科の課題

（３） 授業面

・問題の意味を考え、思考力や判断力を問う問題の解法について理解を高める必要がある。

・夏季休業中の学習教室や定期考査前の質問教室等を利用して、基礎の計算を苦手にしている生徒の学力向上を図っている。

（４） 指導面

・問題集を提出させることで問題演習の機会を設けているが、家庭での反復練習や復習ができていない生徒が多い。

・個別指導を必要としている生徒が多い。

５　授業改善について

（１）学習面

・授業の始めに復習計算プリントを行い、基本基礎の解く力を身に付ける。基礎基本を重点にして、繰り返し問題練習に取り組む。

・学習指導員の巡回を利用して、個別に対応できるようにする。

・問題演習の充実では、家庭学習を通して、スタディサプリなどを活用し、基礎的な問題の演習量を確保するため、授業でスタディサプリを活用する。

（２）指導面

・質問教室や夏休みの学習教室を通して、個別指導を行う。

・夏休みの課題で基本的な１学期の計算問題の反復練習を行う。

・問題集の確認後、理解していない生徒に対して再提出等の適切な指導を行う。

６　成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和８年度末に以下の方法で評価する。

（１）＜知識・技能＞計算テスト・定期考査の結果、章ごとの振り返り学習

（２）＜思考・判断・表現＞計算テスト・定期考査の結果、章ごとの振り返り学習

（３）＜主体的に取り組む態度＞授業での取り組み、定期考査の結果、提出物

ついては以下のような特徴が見られる。

（１） 基礎的な四則計算が身に付いており、授業にも意欲的に取り組めている生徒が多いが、分数や小数、累乗の混ざった応用の計算問題ではミスが目立っている。

（２）計算問題を解く力はあるが、文章題や工夫して解くような応用問題を苦手とする生徒が多い。授業では周りの人と相談し、考える時間を設けている。「思考力・判断力・表現力」を必要とする問題では、粘り強く考えることが苦手で、解かずにあきらめてしまっている生徒もいるための正答率が低くなっている。応用力が身に付いていない生徒が多い。

２　学力調査・中間考査、期末考査等の結果を踏まえて

（１）３年生で習った基本的な知識・技能は身に付いているが、１・２年生で習ったことが身に付いていない生徒が多い。

（２）１学期期末考査では、思考力・判断力・表現力の得点が全体的に低く、応用力が身に付いていない生徒が多い。また都立入試の大問１を想定して１，２年の復習問題を出題したが、ミスが非常に多かった。

３　学力に関する状況

以上のことから本校の現３年生の数学の学力については以下のような傾向が見られる。

基本の計算問題、特に整数の計算についてはできるが、分数、小数の計算や、２年次の関数、３年次の展開、因数分解、平方根の利用等で、考えて問題を解くことを苦手としている。また、文章題などの融合問題などの「思考力・判断力・表現力」を力が不足している生徒が多い。

４　教科の課題

（１）学習面

・授業に前向きで、意欲的に学習に取り組んでいる部分の良さも大切にする。
・文章題など考えて解く問題の解法について理解を高める必要がある。
・定期考査前の学習や長期休業中の学習教室を利用して、苦手にしている生徒の学力向上を図る。

（２）指導面

・個別指導では、ある程度の理解に達するが、一斉指導での理解度が低い。
・単級の授業展開により、個々の理解度の差が激しく、授業の進度の調整が難しく、未定着のまま、授業が進んでいくことがある。

５　授業改善について

（１） 学習面

・問題演習の充実

毎時間授業内で問題演習が必ずできるように時間を確保する。

・問題集の自主的な学習の習慣化の徹底
問題集の提出と定期テストを定例化し、何をすればよいのか等の目標をもった学習ができるように指導する。
・応用問題の充実
形式的に解ける問題だけではなく、文章題や１・２年次の学習内容を定期的に取り入れる。
・夏の学習教室の実施
補習教室を通して、休校中の学習内容や１・２年次の総復習をして学び直しをする。
・放課後・質問教室等の補習教室の充実
基礎計算が定着していない生徒、休校中の課題の理解不足生徒への、反復指導を行う。

（２）指導面
・授業では、解説を聞くだけではなく、近くの人と相談したり、自分で考える時間を確保し、自力で解く習慣を身に付けさせる。
・反復練習によって、計算の基礎を身に付けさせる。
・補習教室によって、定着が不充分な生徒の学力を付け、復習テスト等を行う事で、理解度を確認できるようにする。
・ICT 機器などを活用し、生徒の興味・関心を伸ばすことを心がける。

６　成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和８年度末に以下の方法で評価する。
（１）観点別学習状況の評価の学期ごとの比較
（２）中間考査、期末考査の結果
（３）第２回確認テストの結果
（４）数学授業のアンケート